



樹里安だより

ジュリアン

2006年12月
Vol. 20



— 安行の名所 (その七) —

川口安行原自然の森 《川口市大字安行原》

かわぐちあんぎょうはらしぜんのもり

密蔵院の隣に位置しており、首都圏では珍しい広々とした緑地帯となっている。斜面林と低地を含めて約1.7ヘクタールある。市有地だが、2001年に市と覚書を交わして現在は、地元の「安行・花とみどりを愛する会」が管理、運営している。

自然の森にはナラ、サワラ、ムクノキなどの樹木が茂り、ヤマブキ、ハナショウブ、アジサイなどが植えられている。散策道も整備され、近隣の方々の憩いの場となっている。4月のヤマブキと6月のハナショウブは毎年競うように見事な花を咲かせる。

長徳寺の

ビャクシン

(川口市芝6306)

数年振りに長徳寺を訪ねた。以前カヤの取材でお邪魔したこのお寺には、立派なビャクシンがあったことを思い出したからだ。ビャクシンは全国各地の寺社で利用され大木になり、保存樹木などに指定されているものも多い。また樹形が美しく庭園樹や盆栽としても利用され、シンパク・ハイビャクシンなどの変種も多い。心材は、暗紅褐色で重硬緻密、耐久性に優れ、建築、器具、家具、鉛筆、彫刻材などに利用される。あまり意識はしないが知らず知らずのうちにお世話になっている身近な木なのである。

山門をくぐり抜けゆったりとした坂道を上り本堂にたどり着いた。本堂は前回の取材時には修理が行われていたが、すっかりお色直しされていた。

ビャクシンは、その本堂の近くにあり隣には川口市の保存樹木のヒノキが並び立つ。この木は埼玉県指定天然記念物で、鎌倉の建長寺のビャクシンの実生と伝えられている。建長寺のビャクシンは開山・蘭溪道隆が中国から苗木を持ってきて植えたと伝えられている。偶然にも取材の数日前に鎌倉の建長寺を訪れていた。そこで本家のビャクシンを見ていた。その太い幹周りや幹肌が醸し出す独特の雰囲気や圧迫された。700年にも及ぶ歴史の重みを感じ取って帰って来た。

長徳寺のビャクシンも、本家とは違う見る者の背筋を伸ばさせる迫力のある姿を見せている。また、絵に描いたような美しい樹形。男性らしさと女性らしさを併せ持った木であった。建長寺のビャクシンが先祖であることも納得し取材を終了した。



ビャクシン *Juniperus chinensis* L. (ヒノキ科ビャクシン属)

- 別名 イブキ
- 分布 本州、四国、九州、朝鮮、中国
- 高さ 15~20m 幹周り2~6mぐらいになる常緑針葉高木
- 用途 庭木 盆栽 器具 彫刻材 床柱
- 陽樹
- 4月に開花 生長は遅い 萌芽力がある 刈り込みに耐える 乾燥の砂質壤土を好む 移植は注意を要する 潮風に耐える
- 樹冠は円錐形 葉は鱗片状のものと先のとがった針状のものがまじる 雌雄異株 まれに同株 雄花は黄褐色、雌花は淡白緑色で小枝の先につく 球果は肉質で直径7~9mmのほぼ球形 翌年10月に黒く熟し、白粉をかぶる



長徳寺の保存樹木

■ 埼玉県指定天然記念物

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在	幹周	樹高
ビャクシン	ヒノキ科	S12.3	-	芝 6303	3.3m	13.0m

■ 川口市保存樹木

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在	幹周	樹高
ヒノキ	ヒノキ科	H12.9.1	2	芝 6303	2.7m	21.0m

※その他の保存樹木については、樹里安だよりVol.13を参照



牧野富太郎からの手紙

牧野富太郎(以下、富太郎)は、「日本の植物学の父」と言われています。多数の新種を発見し、命名しました。近代植物分類学の権威です。(詳しくは別のプロフィール参照)

この富太郎と昭和の初期に安行にある造園業者の好樹園が直接交流を持っていました。富太郎は、自身の研究のため植物の豊富な安行に度々訪れていたようです。その証として富太郎から好樹園にあてた手紙が残っています。

この手紙は、昭和18年8月のもので、安行に来た際、当時の好樹園の園主であった中田臆右衛門氏の手厚い対応(車を手配して安行のいろいろな植木屋を案内し、帰り際にはおみやげを持たすなど)への御礼が述べてあります。手紙の最後に送付の約束をしたサッコウフジの再確認がしてあります。

夏の暑い日に安行に来て、植木屋を周り、研究材料を手に入れた富太郎。63年という長い年月を超えて、その研究熱心さが伝わってきます。また、富太郎の研究に理解を示し、協力する安行の植木屋の心意気も感じとることができます。

サッコウフジ

手紙の文中でサツカウと記載されていますが、これはサッコウフジのことです。和名がムラサキナツフジで別名をサッコウフジといいます。おそらく富太郎が略してサツカウと日頃から呼んでいたからと考えられます。一般のフジよりも遅い時期である初夏から真夏にかけて花が咲きます。富太郎がこれをどのような研究に利用したかは定かではありませんが、晩年に刊行された「牧野日本植物図鑑」に反映されていることは間違いのないといえるでしょう。



ムラサキナツフジ (Millettia reticulata)

【別名】 サッコウフジ

【園芸分類】 常緑ツル性低木

【科名】 マメ科

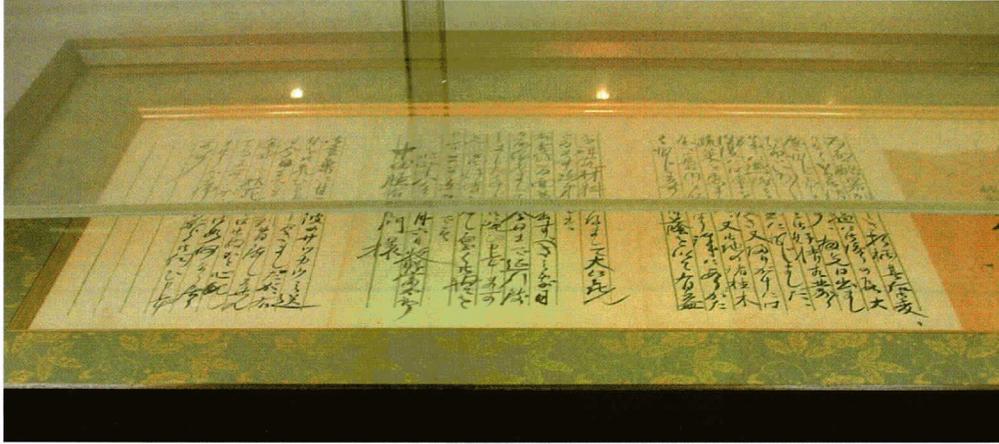
【原産地】 台湾～中国南部

【属名】 ナツフジ属

【花期】 6～8月

手紙の展示

『川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」10周年記念事業・第63回秋の安行植木まつり』が平成18年10月7日(土)～9日(月)の3日間で開催され、安行の歴史紹介コーナーで好樹園から借用して展示しました。安行の緑化産業の歴史が日本の植物学の集大成に貢献した証明です。



※文中「サツカウ」とは、「サッコウフジ」のこと。「ムラサキナツフジ」ともいう。

拝啓酷暑烈しき折柄其后御変りなく益々御清適に御渡りの段大慶に存じ上げます
扱先日出ました節はいろいろと御好情相蒙り誠に感謝の至に存じました、往復には車を頂き又帰りがけには蔬菜を恵まれ、又御地の諸植木屋へ御案内を賜はり誠にありがたく存じます御蔭を以て有益な研究材料を得まして大いに喜んで為ます次第です
右否哉書面差出すべきの處日々取紛れまして今日まで延引致しました事を御詫び申上げます
先は右御好情に対し厚く御礼を申上げます次第です
昭和十八年八月六日牧野富太郎
中田臆右衛門 様
御言葉に甘へ彼のサツカウの送付を御願ひ申上げおきましたが、右は今日までまだ到着致しません
途中で枯死しはせぬかと心配して為ますが右は如何なり居りましようか序でながら御伺い申上げます

ー 牧野富太郎プロフィール ー

「日本植物学」の父と言われていて、多数の新種の発見、命名を行った近代植物分類学の権威です。その研究成果は多数の標本や著作として今でも残っています。文久2年4月24日(1862年5月22日)土佐国佐川村(現高知県佐川町)出身。商家に生まれ子供の頃から植物に興味を示していました。小学校に通いますが中退し植物採集に没頭していきます。欧米の植物学も勉強し、帝国大学(現東大)に出入りするようになります。25歳で共同で「植物学雑誌」を創刊し、その後28歳で日本でのムジナモの新発見をし、世界でも名前を知られるようになります。1912年から1939年まで東京帝国大学理科大学講師。65歳で理学博士。同年に発見した新種の笹に翌年亡くなった妻の名をとって「スエコザサ」と名付けました。78歳で研究の集大成である「牧野日本植物図鑑」を刊行。1956年95歳で死去。墓所は東京都台東区の谷中霊園。



『川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」 10周年記念事業・第63回秋の安行植木まつり』開催！

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」は地場産業である緑化産業の振興を目的として平成8年4月1日にオープンしました。これまでに約620万人の来場者があり市内の緑化産業振興施設としてまたオアシスとして機能してきました。

平成18年10月7日(土)～9日(祝)の3日間で10周年を記念した『川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」10周年記念事業・第63回秋の安行植木まつり』が開催されました。10月7日(土)には記念式典が行われ、多くの方にご出席いただきました。式典の一環として実施された「緑花トーク」は地元の緑化産業を代表して3名の方に今後の緑化産業の展望についてお話ししていただきました。

事業としては、「緑化事業」「歴史紹介」「子供向け事業」などが実施されました。緑化事業については、「新樹種の展示」「特産品の展示」「植木の手入れ実演」「植木・鉢物等の展示販売」などが行われ、地元緑化産業のPRとともに緑化の普及啓発を図りました。「歴史紹介」については、安行の緑化産業の発展に寄与した植木の手入れ道具や書籍などの展示し、また地元のボランティアにより安行の史跡めぐりを実施しました。350年にも及ぶ安行の歴史、文化、世界を誇る優良産地であることを伝えることができました。特に「牧野富太郎からの手紙」は注目を集めました。また、「子供向け事業」として夏休み期間に作製いただいた「樹木を利用した作品展示」や「押し花」の展示をしました。期間中には「押し花ストラップ作り」を実施しました。お子さまに緑・自然とふれ合ってもらい、その大事さを感じてもらいました。また来場者サービスとしてオランダから直輸入した「ムスカリの球根の配布」と「園芸相談」を実施しました。天気にも恵まれ多数の方にご来場いただき、たいへん好評のうち終了しました。



ムスカリの球根配布



植木の手入れ実演

『川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」
10周年記念事業・第63回秋の安行植木まつり』

記念式典



岡村市長挨拶



獅子舞



加藤理事長挨拶

緑化トーク



柴道 昭氏



横井政人氏



大熊 進氏

子供事業



押し花作り



押し花展示

緑化事業



枝物展示



防風展示



植木市開催



園芸相談

資料展示



歴史資料展示



新樹種ガーデン



歴史探訪ツアー



農薬の種類

- 殺虫剤：植物に対して有害な昆虫等の駆除また防除
- 殺ダニ剤：植物に対して有害なダニの駆除又は防除
- 殺菌剤：植物に対して有害な病原菌の駆除又は防除
- 殺虫殺菌剤：殺虫剤と殺菌剤両方の効果を持つ薬剤
- 除草剤：雑草類の駆除又は防除効果を持つ薬剤
- 殺鼠剤：ねずみ類の駆除剤
- 植物成長調整剤：植物の生理機能を増進又は抑制し、成長を調整する薬剤
- 誘引剤：主に昆虫等が特定のにおいやフェロモンに引き寄せられる性質を利用した薬剤
- 展着剤：害虫や農作物などへの付着性を高める目的に他の農薬と併用する薬剤
- 忌避剤：特定の生物（害虫や鳥、獣）が嫌う臭いや味、色を利用して農作物への害を防除する薬剤
- 微生物剤：微生物により害虫や病原菌を防除または駆除する薬剤



ジュリアン

樹里安

川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

発行日：平成18年12月1日

発行：財団法人 川口緑化センター

〒334-0058 川口市安行領家844-2

TEL 048-296-4021

ホームページ：<http://www.sainet.or.jp/~juran/>